

夏休みが始まりましたね！

今月は先月粕屋町の小学生に紹介した本をご紹介します。

『ヘンリー・ブラウンの誕生日』

エレン・レヴァイン／作 カディール・ネルソン／絵 千葉 茂樹／訳 鈴木出版  
2008年 1995円 絵本

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★★ 中学生★★☆  
高校★☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

ヘンリー・ブラウンは自分の誕生日を知りません。自分の歳も知りません。なぜならヘンリーは奴隷だからです。奴隷は主人の持ち物。誕生日もなければ、自由もないのです。

ヘンリーは生まれながらの奴隷ですが、幸運なことに大人になって家族を持つことができました。ところが、最近妻のナンシーの主人がお金に困っているというのです。そしてヘンリーの心配どおり、ナンシーと子どもたちはナンシーの主人によりヘンリーにひと言のことわりもなく売られてしまいます。

絶望したヘンリーは、遂に命をかけて自由を手に入れる決断をします。自分を荷物にして奴隷制度のないアメリカ北部へと送ることにしたのです。

これは、1800年代のアメリカで本当にあった物語です。

<子どもに手渡すときのポイント>

この本を先日5年生に紹介しました。ブックトークの中の1冊で、読んでもらえなくてもこんな本もあるよ！ということが伝わればいいかなぁというくらいの気持ちだったのですが、子どもたちはとても興味を持ってくれました。

始めに「これは本当にあった物語です」といって前半部分をよみきかせ、途中を簡単な説明にして、最後フィラデルフィアにたどりついたところをまた読んできかせました。その後「著者はしがき」にある地下鉄道について説明し、ヘンリーが実際にどれくらいの時間箱の中にいたか、どれくらいの距離移動したかを伝えました。

よみきかせの最中に子どもたちが売られていく場面では、みんなが息をのみ「えっ、本当に？」と声をあげる子もいました。そして、ブックトーク後、もう一度手にとってじっくり見ている子どもが何人もいたのです。

図書館でもいい絵本なのにほとんど貸出されないのが正直意外でしたが、やはり事実であるという重みが高学年の子どもたちの心に響いたのではないかと思います。高

学年へのよみきかせについてはよく相談を受けるのですが、このように少し重いテーマでも高学年だからこそ心に響く物語を読んであげるものよいのではないのでしょうか？ただし、あまり感情的にならず本の力を信じて淡々と読むことをお勧めします。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館 重村 さやか